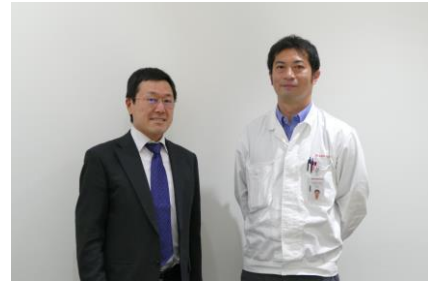


## アクセラ社長のお客様訪問 株式会社本田技術研究所様

本田技研工業株式会社の研究・開発機関として、自動車などに関する技術や製品の研究開発を行う株式会社本田技術研究所を訪問しました。

本田技術研究所の先進技術研究所では研究・開発情報の共有にAccela K-Board（以下K-Board）をご利用いただいています。同研究所の主任研究員長滝貴人様を訪問し、K-Boardを利用した情報共有・活用のお取組みについてお話を伺いました。



### ■「運転行動」の研究開発で情報の共有・ストックにK-Boardを活用

長滝様が取組まれている「人研究」についてお話しいただけますか。

私は長年、操縦安定性や乗心地といった、車の運動性能の解析や制御の研究開発に携わってきました。やがて電気自動車の研究が始まるのですが、車の重心が下がる、エンジンが無くなるなど、これまで



株式会社本田技術研究所  
先進技術研究所  
人研究領域  
主任研究員 長滝 貴人様

の自動車とは物理的に造りが大きく異なるわけです。これは車の概念そのものが変わると感じました。車の諸元が変わることは、人の運転や乗り心地にも影響します。良い車を作り、より安全により楽しく運転してもらうには、車の性能向上だけでなく人の運転行動を

もっと研究する必要があると考えるようになりました。「人研究」では具体的には一般の方の車に同乗しその運転行動を観察したり、MRIを使って一般ドライバーとベテランドライバーの脳がそれぞれ運転中にどう働くかを分析したり、といったことを行っています。人の運転行動というのは、私たちが思っている以上に多様です。なぜ、その運転行動をするのかを理解することで、車の機能開発はもちろん、より運転しやすい社会を作るための、新しい価値創出につながると考えています。

なるほど、人の運転行動から車の性能の向上や、インフラ作りなど社会的な価値を提案していく、ということですね。

そうした研究開発において、どのような経緯でK-Boardをご利用いただくようになったのでしょうか。

以前から、会議で検討した内容や収集した情報を

「鮮度を失わずに残す」にはどうすれば良いか、ということを考えていました。新しい情報だけが良いわけではない。例えば「半年前に話したあの内容を今もう一度見直したい」といった場面はよくあります。その時に考えていたこと、受け止めた気持ちやその場の雰囲気まで「真空パック」のようにして残す方法はないだろうか、と考えていたところにK-Boardがピッタリ来ました。

### ■結論だけでなく、ディスカッションや思考の経緯、内容をそのまま「真空パック」する

「情報の真空パック」ですか！とても的を射たわかりやすい表現ですね。

ディスカッションや検討の結果として必要なのは、必ずしも結論だけではないんです。その時そう考えるにいたった経緯や、そこで感じていたことなど、周辺情報によって、あとから見えてくることはたくさんあります。

また常に新しい情報だけが良い情報、使える情報というわけでもないですよ。研究開発において最新情報を追うことは必要ですが、それら新しい情報をこれまでに集めた過去の情報とどうつなぎ合わせるかが重要です。

K-Boardは単なる文字情報ではなく、ストーリーとして情報を持たせることができる点が良いですね。ディスカッションの内容、意見、その時の気持ちが蘇って、あの時こんなことを考えてこう思っていたというのが一瞬で思い出せる。このツールなら、

情報をその時の鮮度のまま使いやすい形でストックできる、と思いました。

もともとわたしは、思考を整理しながらまとめることができるという点で、ホワイトボードを好んでよく使っていました。K-Boardはまさにデジタル版のホワイトボードといった感覚で使えるのに加えて、経緯や思考を視覚的にわかりやすく整理でき、強調したい点や相関関係も表現できます。更にはそれを保存し、キーワードで検索ができるので、あとから必要な時に必要な情報を簡単に引き出せます。

思考を整理しやすいアナログツール的な使いやすさと、検索性や保存性といったデジタルの利便性を併せ持つ点で、K-Boardを評価いただいているのがわかりました。どのような利用シーンで使うことが多いですか？

グループの定例会の議事録やワイガヤ、連絡事項の掲示板としてなど、様々なシーンで使っていますね。ファイルの添付もできるので、例えば定例会では、議事録を書くゾーンと資料を添付するゾーンとに分け、関連するレポートやテスト結果、報告書、画像、動画など、様々なファイルを議事録と一緒に保存しています。

## ■ 海外の研究所や協力会社等、外部とのプロジェクトでも、情報伝達ツールとして活用

またグループ内だけでなく、他部門や海外の研究所、協力会社等、外部との共同プロジェクトで利用することもあります。そういった場合に、K-Boardはみんなが各自のタイミングで書き込める情報伝達のツールとしてとても便利ですね。情報伝達だけならメールでも事足りますが、メールだと何がどう変わったかのといった全体像が伝わりづらい。その点、K-Boardは色や形を使ったり、情報同士を線で結ぶことで関連性や全体像を表現できるため、視覚的・直感的に伝わりやすいのです。

外部のプロジェクトのメンバーで実際に集まったり、オンラインで打合せをする際には、ディスカッションをしながらホワイトボード代わりとしても使います。

## ■ 情報を「まとめすぎないこと」の良さ

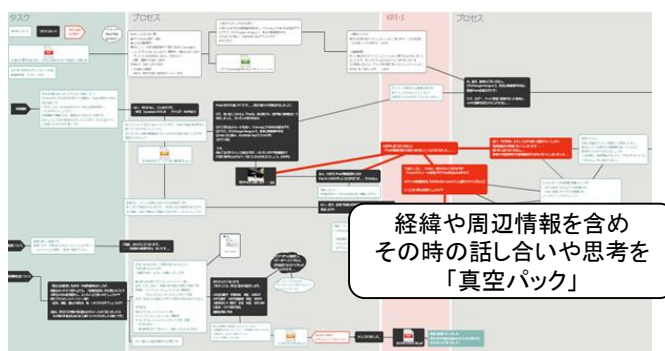
グループ内の他のメンバーが、書き込んだ内容もとても参考になります。何をどう考えているのかを知ることはとても興味深いですし、気づきも多いです。



アクセラテクノロジー株式会社  
代表取締役社長 進藤達也

K-Boardは「まとめ過ぎない」ところが良いと私は思っています。考えや話し合いが発散することは良くありますが、それも含め、リアルな形のままその時の思考を残せるところが良いのです。まとめの資料一枚だと結論しかわかりませんが、実はその発散した内容など周辺にこそ、あとになって大事だと思える要素が詰まっていたりもします。まとめ過ぎないことで、あとから見返した時に、その時の考えや気持ちを含め、いろいろな情報が伝わってくる点がとても気に入っています。

議論や思考のプロセスを重要な情報として「まとめすぎない」というのはナレッジの活用の観点から、興味深い考え方だと思いました。K-Boardがそのような取り組みにピッタリであることも認識できて嬉しいです。



経緯や周辺情報を含め  
その時の話し合いや思考を  
「真空パック」

※画面は一般的な利用例です

訪問日：2021年4月22日  
※記載の部署名、役職名、数値情報は訪問当時のものです。

### ◆ 株式会社本田技術研究所様

本社	埼玉県和光市中央1丁目4番1号
設立	1960年7月1日
URL	<a href="https://www.honda.co.jp/RandD/">https://www.honda.co.jp/RandD/</a>
事業内容	輸送用機器の研究開発

### お問合せ

#### アクセラテクノロジー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー13F  
TEL:03-5793-5411 FAX:03-5793-5412  
E-mail:marketing@accelatech.com  
URL:<https://www.accelatech.com/>